

情報連絡員報告を中心とした 県内の中小企業動向 &トピックス・12月

■パン製造 【県下全域】

過去3年加工賃の値上げは無かったが、その間、廃棄物処理や衛生管理費用が上昇したために製造コストはアップしている。

■味噌製造 【県下全域】

お歳暮等季節的に出荷は伸びたが前年比では減少している。コストの上昇が販売価格に転

■魚加工製造 【銚子】

ここ数年来1尾当り200g、300gであった鯖が今秋以降北部太平洋海区で500g前後の加工に適した魚体になり、銚子地区でも大量に水揚げされて活況を呈している。今は冷蔵庫が満杯状態で製品化しているのが、収益の上昇にはつながっていない。

■製材 【県下全域】

新聞報道では国産材に対する評価が大きく変化してきた。これは外材製品の品薄高を受けて代替需要が発生したのと改正グリーン購入法の施行を受けて、合法証明が得やすい国産材の使用が増えたためである。

県内の合法材認定業者数は12月末現在で約30社あるが今後は徐々に増えるものと思われる。

■印刷 【千葉】

12月下旬になって折込チラシの印刷が増加し、会社によっては偏りがあるが忙しくなったところがある。

■生コン製造 【県下全域】

前月比、前年同月比ともにマインスマイルというところだが、4月から11月の累計では前年比102%で若干前年を上回る。

■電気鍍金 【県下全域】

受注量が多いが、単価の引き下げ要求と原材料等の大幅な値上げ等により収益は悪化している。

■鉄工 【千葉】

特段の変化は見られない。

■建築材料卸売 【県下全域】

悪化はしていないが、好転の気配感じられない。

■自動車解体 【県下全域】

入庫台数が10月以降大幅に減少しており、12月は最悪の状態。廃車入庫は新車販売と密接な関係があり、新車販売が06年通年で20年ぶりの低迷状態となり、

中古車はもちろん廃車の発生もかなり減っている模様。従って、鉄スクラップが高値安定しているながらも業界に好況感はない。

■食肉卸売 【県下全域】

処理頭数増加で利益も上昇している。

■小売 【柏】

年末商戦に入ったが、前年の数字を取れていない。賞与期にも関わらず高額商品の売れ行きが良くない。

■小売 【佐倉】

売上対前年比95・0%
客数94・6%

■小売 【東金】

暖冬で伸び悩んでおり、特に衣料品関係が悪い。前半のギフト関係もここ数年単価落ち。ポーンズ時期も例年より盛り上がりが無かった。

■小売 【野田】

食料品の売上は好調で売り上げ目標を達成したが、衣料品は

厳しい状況で、特に婦人モノの重衣料が伸びなかった。

■電気機器小売 【県下全域】

デジタル商品、特に薄型テレビは短期に大幅値引きが続き、地域店が苦戦した。また、白物商品（エアコン、冷蔵庫、洗濯機等）も良くなかった。

■中古車仕入・販売 【県下全域】

直販・ペースダウン（盛り上がり不足のまま推移）。ユーザーの反応があまりにも乏しい、期待は年明け以降になる模様。軽自動車も変調気配である。

■農業機械販売整備 【県下全域】

今年の農業業界は農政の激変、米価の低迷、経営安定対策、集落営農組織化、法人化対策等があり、昨年の国内需要微増から一転5・8%のマイナスとなる見込み。

■小売・サービス 【習志野】

86%の兼業農家は集約化、法人化への参入の模様ながめから買い控えの動きが強まった。58ヶ月続いているといわれる今の景気「好況」という実感は無い。

なんと去年越しが出来そうです。商店街は多種多様な店舗が寄せ集まって成立しています。シャッター店舗が増えるともうその商店街には人が寄り付きません。すべての商店がだめになります。

■建設 【県下全域】

民間建設の需要で操業度は上昇しているが、受注価格が伴っていない状況である。

■建設 【県下全域】

当連合会加入組合員の官公庁（国、県、市町村）からの受注は65億8200万円であった。前月比では、6億3000万円の減少であった、前年同月比では5億4800万円の減少となっている。前年比では9ヶ月連続の減少。

■貨物運送 【野田】

年末は忙しくなり、それなりの需要もあるのだが、全国で車両、人員不足のため仕事をとりきれない。トラックの燃料である軽油が高値で止まってしまっているため、全体的な運賃アップをしなければならぬ時期に来ている。

■車両や荷物の盗難が多発しており、また労働時間オーバーによる事故も多くなっている。